



おかやま 国際交流



特集1 日本文化体験・交流会	P 2
特集2 中国・四国地区地域国際化協会 連絡協議会	P 2
特集3 研修員ふれあい講座	P 3
事業報告 地域共生サポーター研修会 ほか	P 4
私、岡山に住んでいます 会社員 宮田 アンドリアさん(アメリカ)	P 7
世界の文化 ～スポーツ編～	P 8
Think Global, Act Local ～県内国際団体のご紹介～ ONN(岡山日本語教師ネットワーク)	P 8
JICA寄稿 青年海外協力隊から現地活動報告	P 9
イベントカレンダー 国際貢献NGOフェア ほか	P 10



お琴で「さくら」の1フレーズを体験



デコ巻きずし制作の様子

抹茶を点てる体験

日本文化体験・交流会

7月31日(日)



こちらのQRコードを読み取り、
動画をご覧ください。

今年度から始まった新規事業で、午前は外国人を対象とした日本文化体験(茶道、デコ巻きずし、浴衣の着付け)、午後は日本人も参加して交流会とお琴の鑑賞を行いました。

茶道では講師がお点前を披露し、参加者は講師の点てたお茶を味わいました。また、作法を学び、お茶を点てる体験をしました。デコ巻きずしではパンダの顔の巻きずしに挑戦しました。各パーツを作り、慎重に巻き、上手に仕上がりました。浴衣の着付けでは、初めて体験する着心地に驚く姿が見られました。

午後は、着付けを体験した外国人の参加者が浴衣で参加して、とても華やかな交流会となりました。お琴の鑑賞の後、「さくら」の1フレーズを奏でる体験もしました。中国、イタリア、インドネシアなど10か国からの参加者からは「貴重な体験ができ、とても楽しかった」「友達がたくさんできた」などの声が聞けました。イベントでは、日本文化に興味のある外国人が多く、実際に体験できる機会を強く求めていることが分かるなど日本文化を通じた交流の重要性を感じました。

(詳細は、次ページをご覧ください。)

日本文化体験・交流会
7月31日(日)

講師:茶 道 石井 昌子氏、デコ巻きずし 杉本 美咲氏
着付け 宮田 敏子氏、お琴の演奏 平野 慶子氏

茶道では、作法を学び、お菓子を味わい、順番にお茶をいただきました。お茶を点てる体験では講師も驚くほど上手に点てることができました。ふだん正座に慣れていないため足を崩しつつも、深いお辞儀や丁寧な仕草といった、情緒ある茶道の世界に触れることができ、参加者はよりお茶に興味を抱いたようでした。

調理実習室ではパンダのデコ巻きずしづくりに挑戦。お米や野沢菜、ソーセージなどでパンダの顔を表現します。はじめはどのように顔ができていくのか想像が難しかったです。各パーツを正しく配置し巻くとパンダが完成! デコ巻きずしの細かな作りを学びました。



パンダの顔が完成!

浴衣の着付けでは、浴衣を持っているけれど着られずにいた参加者は今回で少しコツをつかみました。「着るだけで、奥ゆかしい気分になる」という声も聞かれました。

午後からの交流会は日本人参加者も加わり、自由な交流を楽しみました。お琴の演奏を間近で見ることができ、美しい日本の音色に触れ、感激する参加者の様子が見られました。演奏体験では「母国の学校で習った『さくら』を弾けてすごく嬉しい」と喜んでいました。



講師のお茶をいただく参加者



乾杯の音頭をとる石井 昌子氏(左)



交流会の様子

中国・四国地区地域国際化協会連絡協議会

10月28日(金)

【講師】一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 事務局次長 勝谷 知美氏

今年の4月、2度にわたり地震が発生し、大きな被害を受けた熊本から講師を迎え、中四国地区の国際交流協会職員25名を対象に「熊本地震時の対応を通して～外国人支援活動について～」と題して、研修会を開催しました。

地震が発生した直後、熊本市から避難所設置の要請があり、(一財)熊本市国際交流振興事業団が、熊本市国際交流会館に24時間体制の避難所を開設したところ、外国人40名を含む150名が避難してきたため、館内に多言語支援センターを設置しました。必要な情報は多言語(英語・中国語・韓国語など)で掲示するとともに、ホームページ・Facebook・メールでも発信しました。また、チームに分かれて避難所を巡回して外国人のケアに努めました。食事は外国人支援団体コムスタカの協力により炊き出しが行われ、イスラム教の方々には近隣のホテルから提供されたハラールのお弁当を配給したそうです。加えて、同事業団が実施した「外国人被災者のための生活相談会」では、外国の方から「今回の地震は揺れが長引いており、他の場所に移動するのが怖かった」「夜、寝れない。いつまで揺れは続くのか…」という答えが多く返ってきたそうです。

「外国の方は住み慣れた地域に避難する傾向があるため、今後は地域で受け入れることを考えなければならない。防災の基本的なマニュアルは必要だが、起きた状況によって、何をしなければならないのか、押さえておかなければならないポイントをマニュアルに入れておくことが一番重要」との講師からの助言を受け、災害時における外国人対応の大切さを改めて考え直すきっかけとなりました。



講師の勝谷 知美氏



避難所の様子



生活相談会では心のケアも

研修員ふれあい講座

特集3

岡山県の海外技術研修員として滞在中の5名が講師となり、県民と交流するふれあい講座を開催しました。

(講師氏名の右()内は出身国、研修科目)

ブラジル料理 de 交流会

9/3

講師

神津ダニエラ明娜さん
(ブラジル/工業デザイン)
富永カリナさゆりさん
(ブラジル/品質管理・物流プロセス)



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

ブラジルのパーティーに欠かせないデザート「ブリガデイロ」、手軽に作れるおつまみ「ツナのパテ」、タピオカの原産地であるブラジルで定番メニューの「タピオカクレープ」作りに挑戦しました。ブリガデイロの調理では、一口大の大きさに丸めて、スプリングルをまぶして仕上げる作業を小学生が率先して行いました。ブラジルの屋台などで売っているタピオカクレープは、タピオカ粉をフライパンに敷いて熱すると、不思議なことに粉がくっついて、薄いクレープに仕上がります。クレープにチーズとハムをはさみ、軽くて、少しもちっとした新鮮な食感を楽しみました。



富永さん(左)と楽しくブリガデイロを丸める

タピオカ粉をフライパンにひく(左が神津さん)

ミャンマー料理 de 交流会

9/10

講師

テ・テ・スエさん
(ミャンマー/医療・乳腺外科)



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

ミャンマーの国民的麺料理「モヒンガ」を調理しました。スープは、魚の身と米粉と玉ねぎを混ぜて作り、んにくや玉ねぎ、しょうが、バナナの茎などで味付けします。講師のおすすめのトッピングであるウリの天ぷら、アヒルのゆで卵、コリアンダーを添えました。魚のだしと玉ねぎの甘みであったりとした味に仕上がっていて、ウリの天ぷらとの相性も抜群でした。講師から出身地である古都マンダレーの紹介もありました。仏教の教えが生活の一部である日常や、仏教遺跡、修道院などについて知ることができました。



ウリの天ぷらに挑戦(中央がテ・テ・スエさん)

研修員ふれあい講座

10/22

～ネパール編～

講師

ディウス・ラズ・ボホラさん (ネパール/医療・内科)



医師ならではの視点で語るディウスさん

AMDAダマック病院の医師であるディウスさんが、ネパールの変化に富んだ自然環境や医療事情を話しました。5歳未満の乳幼児死亡率や周産期死

亡率が近年大幅に改善されてWHOの目標を達成できたことや、平均寿命も短期間に大幅に伸びたことを説明しました。講師は、これらの改善の理由として、医者を輩出する大学や医療機関の充実や、道路や交通機関などインフラの整備を挙げました。また、通訳を務めたネパール出身のアルチャナ・シュレスタ・ジョシさん(認定特定非営利活動法人 アムダ)は、ネパール地震直後のアムダの取組みを紹介しました。

研修員ふれあい講座

10/22

～中国江西省編～

講師

李 婷玉さん (中国/人的資源管理)



参加者をひきつける語りの李さん

出身地であり中国南西部に位置する江西省、特に南昌市について紹介しました。10の淡水湖、道教にとって神聖な山々、岩壁に棺を埋葬した謎の多い懸棺葬墓など人々の生活や思想に大きく影響を与えた自然や、南昌炒粉というソルフード、景德鎮で有名な繊細で美しい陶磁器を知りました。また、クイズ形式で、中国からの旅行者が日本の製品を大量に買う理由や、急速に発展した中国が抱える問題、若者の晩婚化などに触れ、参加者は、めまぐるしく変化する中国の様子を楽しく学びました。

地域共生サポーター研修会

7月30日(土)

県内で生活する外国人住民のコミュニケーションや生活面の支援を行う「地域共生サポーター」として、岡山県に登録しているボランティアを対象に研修会を実施しました。

第一部では、岡山県国際課国際交流員のモーゼス・フォヌアさん(オーストラリア出身)と県内在住外国人のタキカワ・リンズ・カスピトさん(フィリピン出身)から、岡山で生活してみて感じたことやサポーターに求めることなどの発表がありました。モーゼスさんは、日本の銀行システムの不便さやお金のやりとりの違いについて述べた後、日本の技術力を活かして便利な銀行サービスを開発してほしい、買い物をする外国人のために必要な英語を覚えてほしいと話しました。タキカワさんは、日本人の優しさに救われた経験談や日本人が持つフィリピン人への先入観で困ったことを紹介しました。参加者は二人の率直な意見や経験談に共感し、日本の事情についてアドバイスをする姿も見られました。

第二部では、県内で多文化共生のために活動している長野 エドウィンさん(地球おこし協力隊)、善木 誠さん(NPO法人日本ハラルサポート協会)、チフチ・アイテキさん(岡山市トルコ文化センター)、島岡 健さん(おかやま申請取次行政



発表をする
モーゼス・フォヌアさん



長野 エドウィンさんによる活動発表

書士連絡会行政書士連合会)、窪田 昌子さん(岡山市子どもセンター)が、各団体の立ち上げのきっかけや活動紹介、今後の方向性などについて話しました。地域の多文化共生団体を活動する参加者にとって、活動の具体的なアイデアや課題などを共有する機会となり、20名のサポーターにとっては、多文化共生への意識を高め行動を起こすためのヒントが得られる機会となりました。

第三部のグループ別交流会では、関心のある活動分野(多文化共生、観光・町づくり、外国人支援、子育て支援)ごとに分かれ、情報交換を行いました。



グループでの情報交換

国際理解ワークショップ

8月28日(日)

講師：岡山大学大学院 教育学研究科 教授 桑原 敏典氏

平成28年7月に実施された参議院選挙から、選挙権年齢がこれまでの20歳以上から18歳以上に引き下げとなりました。このことを受け、若者たちが一市民として社会や世界の課題に関わっていけるよう、「18歳選挙権」をテーマにワークショップを開催しました。

最初に、参加者同士打ち解けるため、18歳の頃、何をしていたかを紹介し合い、和やかな雰囲気ですターしました。続いて講師から、選挙権年齢が18歳に引き下げられた背景や若者の政治参加の現状、諸外国の状況等について講義がありました。



桑原 敏典氏による講義

ワークショップでは、学校教員を中心とした参加者12名が4グループに分かれ、選挙権年齢を16歳



グループ発表の様子

に引き下げることの賛否について話し合いました。また、国際問題に関するメディアの読み解き方を学ぶため、若者が祖国を捨てイスラム国へ向かう理由について書かれた複数の記事を読み、どの記事が最も説得力があったか、反対に説得力がなかったのはどれかを考え、意見を交換しました。

最後に、日本の若者が社会や政治に関心を持つための方策をグループで話し合い発表しました。「実践的な議論の場を作る」「自己と社会・政治との関連性を実感できる活動の充実が必要である」「他国の政治や投票を例に示す」等の提案に加え、すでに18歳選挙権を導入しているアメリカ出身の参加者からは「テレビや選挙アプリ、SNSで政治家が若者に向け発信する」といった意見が挙がりました。

中国、アメリカといった外国人や高校生、大学生の参加もあり、各国の状況や若者の声を踏まえ議論をした充実したワークショップとなりました。

講師：神戸大学大学院 国際文化学研究所 教授 岩本 和子氏

日本・ベルギー友好150周年を記念して、「日白友好150周年～移民の国ベルギー! 多文化共生への道のり」と題して講演会を行い、48名が受講しました。ベルギーは西ヨーロッパに位置し、面積は日本の12分の1という小国です。長い歴史の中で多くの移民を受け入れてきた国で、公用語は、北部がオランダ語、南部がフランス語、東部がドイツ語、首都ブリュッセルはオランダ語とフランス語を併用しています。今年3月、首都ブリュッセルで起きた連続テロ事件がまだ記憶に新しいところです。

講師の岩本氏は首都ブリュッセルにはイタリア人、フランス人、オランダ人に次いでトルコ人、モロッコ人



講演の様子

が多いという移民の現状や歴史、移民政策などを解説しました。その中で、「ベルギーは、多様性を受け入れ続けている長い歴史のある国。

小国であって、

外からのものを受け入れつつも、それを自分たちのものとして、想像力を持って発展させていく面では、日本も学ぶ部分が多い。多文化共生社会において、自然にお互いを受け入れ合うことが重要だ」と話しました。

参加者からは「初めてベルギーに行った時、自分は知らなかっただけで日本といういろいろつながりがある素晴らしい国だと思ったので参加した。移民についてよく分かった」などの感想が寄せられました。



講師の岩本 和子氏



こちらのQRコードを読み取り、動画をご覧ください。

英語で話そうー英語で岡山寺社巡りー

10月2日(日)

講師：かいがき 雅琦さん(中国)、グエン・ダン・クイさん(ベトナム)

じよさいし
コラダ・ヴェンカタ・アブヒナブさん(インド)、徐 才思さん(中国)

チュオン・チャン・ニュー・ティーさん(ベトナム)、チョンソンヒさん(オーストラリア)

ベイツ・アレックスさん(オーストラリア)、ラオ・クリシュナさん(インド)

英語を使って楽しく交流するというテーマのもと、留学生が受付から英語で参加者を迎えました。32名の日本人と5名の外国人参加者はABCの3チームに分かれて、留学生8名とともに、英語を話しながら岡山駅前周辺の寺社を楽しく巡りました。

かつての城下町である岡山には多くの寺社が点在しています。訪れたのは、岡山神社天満宮、本行寺、金刀比羅神社、子守神社です。留学生は、事前に調べてきた神社の参拝方法や子守神社に伝わる石の伝説などを英語で説明し、寺社の悲しい記憶である岡山空襲の傷跡に触れました。参加者が留学生に岡山の戦災について語る場面も見られ、英語での会話を通して互いに新しい発見に出会いました。日本

人同士も英語で会話を楽しみ、岡山の歴史に触れながら交流を深めました。

パーティーでは、留学生から、英語で中国、オーストラリア、インドの紹介がありました。多文化社会のオーストラリアで育った留学生の体験談を聞いたり、中国、ベトナムのおいしい料理やインドの多様な文化や美しい装いについて学んだりすることができました。

イベントの最後に、寺社巡りで撮った写真を使ったチーム対抗のフォトコンテストを開催し、Cチームが見事優勝しました。参加者は英語を使って積極的に会話を楽しみ、実りの多い一日となりました。



こちらのQRコードを読み取り、動画をご覧ください。



パーティーの様子



「狐のポーズ!」のAチーム



笑顔いっぱいBチーム



フォトコンテストを制したCチーム

国際貢献・協力セミナー

10月8日(土)

講師：認定特定非営利活動法人アムダ 理事長 成澤 貴子氏、岡山大学 准教授 頼藤 貴志氏
認定特定非営利活動法人アムダ国際医療情報センター 庵原 典子氏

第一部では成澤氏が、団体の発足理由や基本理念、活動内容について紹介しました。支援される側の気持ちを配慮すること、その土地の復興のためにローカルイニシアティブ(現場主体)の考えを持ち活動することなどの、支援を行う上で忘れてはならないことを学びました。また、南海トラフ災害へ備えた具体的な対策についても話がありました。



第一部講演の様子

さらに頼藤氏から自身の専門分野とAMDAでの活動について講演がありました。熊本地震で現地に診療所を設け被災者の診察を行った際の被災者の状況や様態の変化、福祉面のサポートの必要性などについて話しました。また、ルワンダでの医療



第一部講師の頼藤 貴志氏

支援について、学校健診を行ったことや、小児医療のレベルアップ、集団学校検診及び母子手帳の導入・普及の働きかけについて紹介しました。

第二部では、庵原氏から在日・訪日外国人医療についての講演がありました。阪神淡路大震災の際に発足した外国人支援が現在の基となっていることや、災害時の外国人被災者のサポート、現場での通訳や離れた所からの翻訳ボランティアといった言語面での補助、文化・習慣の違いの考慮、避難訓練や避難経路の確認などの重要性について学びました。ワークショップでは、外国人を含む被災者に数が足りない弁当をどのように配分するかというシミュレーションを行い、グループに分かれ考えました。



第二部の庵原 典子氏によるワークショップ

また、決してひとつではない「訪れた先での被災」について考慮できたことは貴重な経験となりました。参加者からは「日頃から災害等について考えることが必要だと思った」「災害時のコミュニケーションの難しさを知った」などの声を聞くことができました。

岡山を知ろう交流バスツアー

10月23日(日)

イギリス、イタリア、インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、中国、バングラデシュ、フィリピン、フランス、ベトナム出身の外国人40名と日本人参加者12名、協会のボランティア8名の総勢60名で、2台のバスに乗りして瀬戸内海、旧野崎家住宅、児島ジーンズストリートを訪れ岡山の自然や歴史、産業を楽しみました。

瀬戸大橋遊覧船「はつひ丸」に乗って瀬戸内海の島々をめぐる。ウィットあふれる船長の島々の話に癒されながら綺麗な景色を満喫しました。瀬戸大橋の真下を通るときには迫力ある瀬戸大橋の大きさに皆、圧倒され喚声が上がりました。下電ホテルのプライベートビーチを散策したり、展望台に上ったりして広大な瀬戸内海の絶景を見渡しました。昼食後の交流タイムでは、グループに分かれて岡山を知るためのクイズや、今回のツアーで出会った人の名前を書いてビンゴを決めるビンゴゲームをしました。



岡山クイズに挑戦

200年の歴史を誇る旧野崎家住宅では、ガイドから野崎家の歴史や庭園、建物の説明を聞きながら日本伝統の家屋や住まいの風習について学びました。塩業資料の展示や塩作り過程のビデオなどから岡山の昔ながらの産業について



こちらのQRコードを読み取り、動画をご覧ください。

詳しく知ることができました。400メートルほどの児島ジーンズストリートでは、最近話題となっている桃太郎



旧野崎家住宅でガイドから説明を聞く

ジーンズの見学をしたり、ジーンズショップで買い物を楽しんだり、ジーンズソフトクリームを食べたりしながら、国産ジーンズの発祥地である児島を満喫しました。なかなか足を運ぶことのない観光名所を訪れ岡山を知った、大変充実した旅となりました。



ジーンズストリートで集合写真

「私、岡山に住んでいます」 岡山で活躍する外国人をご紹介します

岡山に住んで22年、これまで岡山で出会った面白い方やユニークな方、周りの素敵な方とのご縁を大事にしたいと語る宮田 アンドリアさんにお話を伺いました。

一玉野の山と田んぼの景色に一目ぼれ

アメリカの大学と大学院で日本語の勉強をしました。学生時代、日本に1年間留学をしましたが、もう一度日本で勉強したいと思っていたところ、卒業後に文部科学省のJETプログラムに合格をして、再び日本に来ることができました。その後、結婚して岡山県玉野市に住んでいます。18年程前に玉野市へ引っ越し、緑の山と田んぼの景色に一目ぼれました。造船の町で、あまり活気のない雰囲気が続きましたが、最近は瀬戸内国際芸術祭やUNOICHIなど

のおかげで宇野港のまわりは少し活発になり、お店が増えたりアート作品などが出現したりしています。明るくなってきていますので、是非遊びにきてください。



一ゆったりと過ごしやすい出身地カンザスシティ

カンザスシティはカンザス州とミズーリ州の境にあり、私はミズーリ州から来ました。アメリカでは、税金が国ではなく州ごとに決まっているので、カンザスシティの人は税の安いミズーリ州側で買い物をしたりガソリンを入れたりします。カンザスシティは、皆おっとりしていて、家族でゆったりと住める街です。街には大きな木が植えてあり、広い芝生や公園もあって緑が多いですね。

お肉もすごく美味しいです。BBQと言えば、日本人は焼肉みたいなものを想像しますが、カンザスシティのBBQは、肉の塊を大きなスモーカーに入れていぶした後に、コンロかグリルで焼いて、最後にソースをかけて食べます。スモークの味がしみ込んでいてとても美味しいです。家では作れないので、お店に行って食べます。私の好物です。

一日本は便利!

買い物では、日本のお店は小さいので、すぐに用事を済ませることができるのが良いです。アメリカはお店が広すぎて、歩くだ

外国人に岡山の魅力を伝える

会社員

宮田 アンドリアさん

Andrea Miyata



アメリカ・カンザスシティ出身



けで疲れますし、商品を探すのも大変です。

もう1つ、日本の保険は、どの病院でも診てもらうことができますが、アメリカでは自分の働く会社で保険が決まっているので、行ける病院も決まっています。保険のために行きたい病院に行けないのは不便です。

一インバウンドの仕事にやりがいを感じる

午前中は大学で臨時の英語講師、午後から会社で翻訳とインバウンドの仕事をしています。インバウンドの仕事では「Visit West Japan」という雑誌で英文を書いています。取材に同行して、写真家のお手伝いをしたり、自ら撮影をしたりすることもあります。先日、美作市に行って取材をしました。皆が知らない場所を紹介できるのは楽しいですし、小さな市町村が喜んでくれるのが嬉しいです。岡山には、外国人に知られていない穴場や綺麗な場所がいっぱいあるので、それを伝えていきたいです。



ムスリムフレンドリーのお店や観光地を取材中

一岡山の日本酒を勉強中!

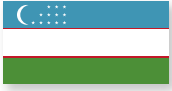
昨年から日本酒が好きになり、岡山産の日本酒の勉強をしています。取材の際に、酒蔵を訪ねることもあります。岡山の日本酒は美味しいのですが、あまりお店に置いていないので残念です。これからもっとお酒のことを勉強して、外国人に向けてお酒の紹介イベントを開いたり、本を書いたりしたいと思います。



マレーシアの旅行フェアにて「Visit West Japan」の配布・PR活動

世界には日本では行われていないスポーツがあり、スポーツの持つ意味も国によって様々です。

ウズベキスタン



ジュラエーウア・カリナさん
(タシケント出身)
大学生／滞在歴：5年

サッカーは、ウズベキスタンが独立を果たした1991年以降、国内において最も人気の高いスポーツです。1920年代にウズベキスタンに伝えられ、プレーが開始されました。有名なサッカー選手に、セルヴェル・ジェパロフ、イーゴリ・シュクヴィリン、ミルジャラル・カシモフなどがいます。

ウズベキスタンの伝統的なスポーツと言えば、クラッシュです。柔道によく似た国民の財産的、国技的格闘技です。クラッシュの始まりは、紀元前4世紀頃に見られ、5～6世紀に人気が高まりました。その後、アミール・ティムール時代に盛り上がり、ティムールはクラッシュで訓練をした若者を軍に採用するなど、クラッシュの保護と発展に尽くしました。今も、結婚式やお祭りなどでは、クラッシュの試合が行われています。クラッシュ



ウズベキスタンの国技「クラッシュ」
(出典：<http://sport.ziynet.uz>)

はウズベキスタンの先祖から伝わる勇敢さや実直さを持ち、忍耐力や勝負心、強い意志などが養われるスポーツです。

ウズベキスタンでは、中世から親しまれてきた格闘技

の人气が高く、世界的な選手も育っています。柔道とクラッシュのオリンピックのメダリスト、アブドゥロ・タングリエフやボクシング世界チャンピオン(WBA)ルスラン・チャガエフが有名です。

オーストラリア



エッシング・ポールさん
(シドニー出身)
奈義町国際交流員／滞在歴：5か月

多くのオーストラリア人にとって、スポーツは単なる生活の一部ではなく、生きがいになっているように思います。出勤前にサーフィンをしに行く人が多く、いたるところのバーでラグビーやテニス、季節にある試合をテレビで流します。クリスマスには、我が家ではクリスマス・ランチを食べた後、ビーチでクリケットを一緒にします。(季節は日本とちょうど反対の夏に当たり、サンタまで海パンを履いてサーフィンをします)。オーストラリアでは、どの地域でも年間を通して日差しが強く、広い国なので設備もたくさんあり、自然環境にも恵まれているため、外や海で遊びたがる人が多いです。

海水浴は特に人気があるので、ライフセービングは大事な役目となっています。ライフセービングはオーストラリア人のスポーツに対する気持ちをよく表していると思います。水難事故の防止等に関する訓練や技術をスポーツとして行っています。

オーストラリア人はスポーツに深い愛着を抱いており、私たちの価値観や責任感にも影響を与えています。



大学の水泳大会で準優勝(前列左がエッシングさん)



ONN (岡山日本語教師ネットワーク)

団体概要

設立20周年を迎えた日本語ボランティアグループです

ONNは、地域の日本語教育の発展に寄与することを目的に、平成7年に設立されました。ボランティアの日本語講座、日本語研修会・講演会の企画運営、会員相互の交流・親睦会の開催、会報「ONN通信」の発行などを行っています。昨年、平成27年に設立20周年を迎え、会員数は約40人です(平成28年10月現在)。

事務局 岡山外語学院 内
〒700-0841 岡山市北区舟橋町 2-10
TEL 086-231-5211
E-mail tomoko_logan@hotmail.com(荒木 知子)
shina_nozaki@yahoo.co.jp(高田 聡)

活動紹介

日本語を教えています

ONNでは外国人のために日本語を教える活動をしています。講座は、火曜日の夜と木曜日の朝の週2回、開講しています。教えているメンバーは現役の日本語教師や日本語教育について学んだことがある人が中心です。火曜日のクラスは留学生や昼間仕事をしている受講者が多いです。木曜日のクラスは主婦の受講者が多いです。毎年12月には、それぞれの曜日で文化授業を開催しています。火曜日はみんなでたこ焼きを作って食べ、木曜日は各国料理の持ち寄りをして、学習者相互の交流を図りつつ、日本文化の紹介を行っています。



火曜日の授業風景



木曜日の文化授業

岡山から世界へ! ~青年海外協力隊から現地活動報告~



おそろいのアイランドドレスで新年会(右が宮西さん)

宮西 麻菜さん
(備前市出身)

派遣国: バヌアツ共和国
職種: 学校保健
任期: 2015年7月から1年9か月

地球幸福度指数第1位「世界一幸せな国」バヌアツ共和国とは

83個の島で構成され、新潟県ぐらいの面積に倉敷市の半分ほどの人が住んでいる小さな国。きれいな海と砂浜、火口まで近づける火山など手つかずの自然に触れることができる国です。

言語

公用語の英語、フランス語、ビスラマ語に加え100種類以上の現地語が飛び交っています!

名物料理

タロイモ、サツマイモ、バナナなどをココナツミルクで煮たもの。

伝統的な衣装

アイランドドレス。両サイドに羽がついた不思議なデザイン!

インフラ

電気、水道、インターネットが安定していない所が多い。

配属先での活動

私の配属先は首都にある保健事務所です。バヌアツでは学校保健の大切さを分かっているも何をすればいいのかわからず担当の人もいません。そこで養護教諭としての経験を生かし、自ら学校に行き手洗い、歯みがき指導をしています。



小学校での手洗い指導

国民の半分以上が太りすぎ…肥満大国!

日本では当たり前になっている身体測定をバヌアツで普及しています。体重計、身長計もないところからのスタート! 体重計を販売している場所を見つけるため炎天下を1時間以上歩き、在庫確保のためにお店の人と長時間に及ぶ交渉…。日本では起きるはずがないことばかりに翻弄され、毎日、へとへと…。

体重計に乗ったことがない先生や子どもたち。身体測定の日、学校中が大騒ぎです。結果を確認して、子どもたちは大喜びです!



先生方と身体測定の練習中



藤岡 宏美さん
(総社市出身)

派遣国: マダガスカル共和国
職種: 家政・生活改善
任期: 2015年7月から2年間

マダガスカルでの生活

マダガスカルの主食はお米です。山盛りのお米にマメ、もしくは野菜を塩味で煮たおかずを少しのせて食べます。基本的に食卓に置かれた一つの鍋からみんなで取り分けて食べるので、急なお客さんが来て一緒に食事を楽しむことができます。お皿が空になると「ほら、まだお米があるよ」と言ってすすめ合うので私はあつという間に太ってしまいました。

洗濯は手洗いです。土曜日の午前



川で洗濯をする少女

中はほとんどの人が洗濯に時間を使います。川で洗う人もいれば、共同の洗濯場に衣類を持って行って洗う人もいます。この国は几帳面な人が多く、時には下着にもアイロンをピシッとかける人がいるそうです。

職業訓練校での活動

私は職業訓練校で洋裁や刺繍、料理の授業のサポートをしています。活動が始まったばかりの去年、私のつたないマダガスカル語での指導でも理解してくれようとしてくれた生徒に支えられながら何とか活動の折り返し地点にきました。私が学生だった頃、新しいことを学び、発見があったときに得た感動をマダガスカルの人達にも感じてもらいたいと思い、日々試行錯誤しながら活動する毎日です。先日、7月に訓練校を卒業した生徒が「就職先が決まった」と報告しに来てくれた時はとても嬉しかったです。あと残り8か月、大好きなマダガスカルで楽しく活動したいと思います。



職業訓練校での様子

会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員: 10,000円
賛助会員: 30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00~17:30(月~土曜日)
E-mail:kokusai@opief.or.jp



1月

1月～3月 国際貢献NGOフェア

国際貢献活動を行っている県内のNGO団体が活動内容を紹介するパネル展示を行います。期間中にはNGO団体による講演等も開催します。

- と き 平成29年1月～3月(10～12週程度)
- と ころ 岡山国際交流センター 1階 ロビー(パネル展示)及び会議室(講演等)
- 対 象 一般県民 ●参加費 無料
- 共 催 特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会
- 問合せ 特定非営利活動法人 岡山県国際団体協議会事務局まで(TEL086-256-2535)

13日(金)・14日(土)・20日(金)

多文化共生コミュニケーションサポーター研修会

多文化共生コミュニケーションサポーター(通訳ボランティア)に必要な基礎知識や心構えについて学びます。

- と き ①平成29年1月13日(金) 14:00～16:30
②平成29年1月14日(土) 13:00～16:00
③平成29年1月20日(金) 13:00～16:00
- と ころ 岡山国際交流センター 3階 研修室
- 対 象 協会の「多文化共生コミュニケーションサポーター」制度の登録者及び新規に登録を希望する方。
- 参加費 無料 ●定 員 各25名程度(要申込み)
- 申込み 情報班まで

28日(土) ボランティア研修会

やさしい日本語とはどんな日本語かを考え、ふだん使っている日本語を「やさしい日本語」に換えて、外国の方に伝わるかどうか実践します。

- と き 平成29年1月28日(土) 13:30～15:30
- と ころ 岡山国際交流センター 地階 レセプションホール
- 内 容 「やさしい日本語」に関する講義及びグループワーク
- 講 師 福井 武司氏(神戸YWCA学院)
- 対 象 当協会ボランティア登録者(新規にボランティア登録を希望する方も可)
- 参加費 無料 ●定 員 20名程度(要申込み)
- 申込み 情報班まで

2月

12日(日) 英語による絵本読み聞かせ会⑤

様々な国に触れ合いながら英語が楽しめる読み聞かせ会です。講師の母国の話を聞くコーナーもあります。

- と き 平成29年2月12日(日) 11:00～11:30
- と ころ 岡山国際交流センター 4階 図書資料室
- 講 師 県内在住外国人
- 対 象 県内在住外国人及び日本人の子ども(3歳～小学6年生)とその保護者等
- 参加費 無料 ●申込み 不要
- 問合せ 情報班まで

2月

15日(水) 地球市民講座 第2回

フィリピンからの看護・介護福祉分野の労働者の受入れが急増している日本。双方の国で取り組むべき課題を検証することで、多文化共生の糸口を探ります。

- と き 平成29年2月15日(水) 18:30～20:00
- と ころ 岡山国際交流センター 2階 国際会議場
- テ マ 「日本とフィリピンの将来を見つめる」
- 講 師 カロス・マリア・レイナルス氏(龍谷大学国際学部国際文化学科 教授)
- 参加費 無料
- 定 員 80名(要申込み)
- 申込み 情報班まで(1月中旬受付開始予定)

18日(土) 日本語指導者スキルアップ研修会

県内の地域日本語教室で在住外国人に日本語を指導している方を対象にスキルアップ研修会を開催します。

- と き 平成29年2月18日(土) 13:00～16:00
- と ころ 岡山国際交流センター 5階 会議室(1)
- 対 象 日本語学習指導の経験のある方
- 参加費 無料
- 定 員 30名程度(要申込み)
- 申込み 情報班まで(1月中旬受付開始予定)

25日(土) 岡山フェアウェルパーティー

3月で岡山を去る留学生、研修生等のための送別会を開催します。岡山での最後の思い出づくりには是非ご参加ください。

- と き 平成29年2月25日(土) 18:00～20:00(予定)
- と ころ 岡山国際交流センター 8階 イベントホール
- 参加費 卒業、修了する外国人… 無料
上記以外の外国人…… 500円
日本人…………… 1,000円
- 定 員 外国人60名、日本人60名(要申込み)
- 申込み 情報班まで(1月下旬受付開始予定)

3月

4日(土)・12日(日)

「外国人と共に学ぶ災害時対応」研修会

災害時の外国人被災者支援に関心のある県民(国籍不問)を対象に、研修会を開催します。内容の詳細は、2月初旬に協会のホームページ等で発表します。

- と き 第1回 平成29年3月 4日(土) 10:00～15:30
第2回 平成29年3月12日(日) 10:00～15:30
- と ころ 第1回 岡山国際交流センター
第2回 高梁市役所内会議室(高梁市松原通2043)
- 参加費 無料
- 申込み 企画班まで(2月上旬受付開始予定)

問
合
せ

一般財団法人 岡山県国際交流協会

企画情報課 情報班・企画班

☎086-256-2914 (月～土 9:00～17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月～土 9:00～17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00～18:00)

[休館日] 12月29日～1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1

岡山国際交流センター内

一般財団法人 岡山県国際交流協会

☎086-256-2000(月～土 9:00～17:30)

☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

E-mail: kokusai@opief.or.jp